



西豊地区
まちづくり
基本構想

2.地域の現状

山添村の概要

山添村は奈良県の北東端の大和高原と呼ばれる一角にあり、標高は120～620m。東部は三重県の伊賀市や名張市、北西部は奈良市、南部は宇陀市に接しています。面積は66.52平方キロメートルで、その約8割を山林が占め、のちに木津川へと注ぐ山あいからの清らかな流れに沿って30の集落と農地が点在しています。

村の歴史は古く、約1万5千年前に遡ることができ、布目川、遅瀬川、名張川、笠間川等の流域では、発掘調査によって縄文時代の遺物が数多く出土し、太古から生活が営まれていたことが確認されています。

笠間川左岸の毛原廃寺には、奈良時代に建立された際の礎石が当時のまま残されており、往時の繁栄を偲ぶことができます。また、本村の観光の拠点である神野山の山腹に建つ神野寺は、僧・行基の開基と伝えられています。江戸時代には、郡山藩、藤堂藩の支配下となって純農村の形を成し、その後、昭和31年9月30日に添上郡東山村と山辺郡波多野村、豊原村の3村が合併して誕生した現在の山添村は、平成28年に立村60年を迎えました。

からす天狗の

てんまる



村のマスコットキャラクター

山添村の人口・世帯

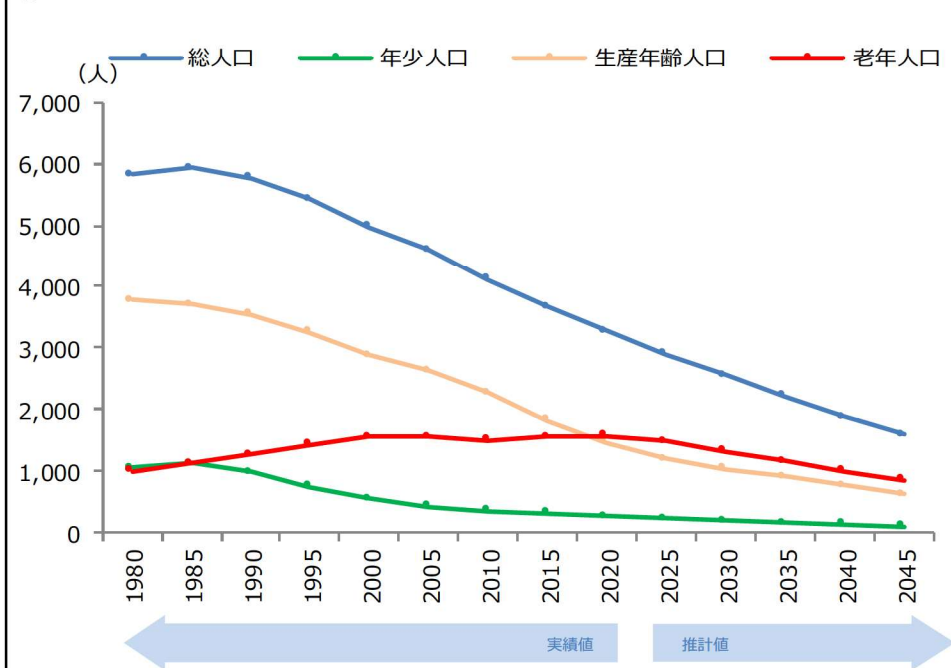
山添村の令和2年11月30日現在の人口は**3,383人**、世帯数は**1,343世帯**、世帯当たり人員**2.52人**となっています。(住民基本台帳)

●高齡化率:**48.2%** (令和2年11月30日現在)

●2045年の人口(推計値):**1578人** (国立社会保障・人口問題研究所)

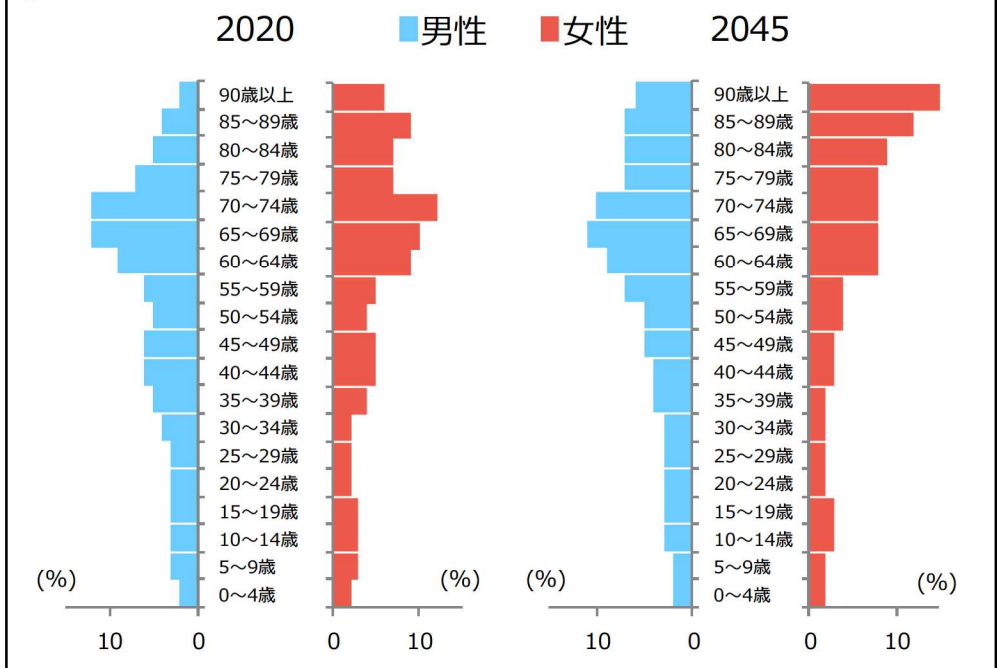
グラフ出典:RESAS

①人口推移



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

②人口ピラミッド



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

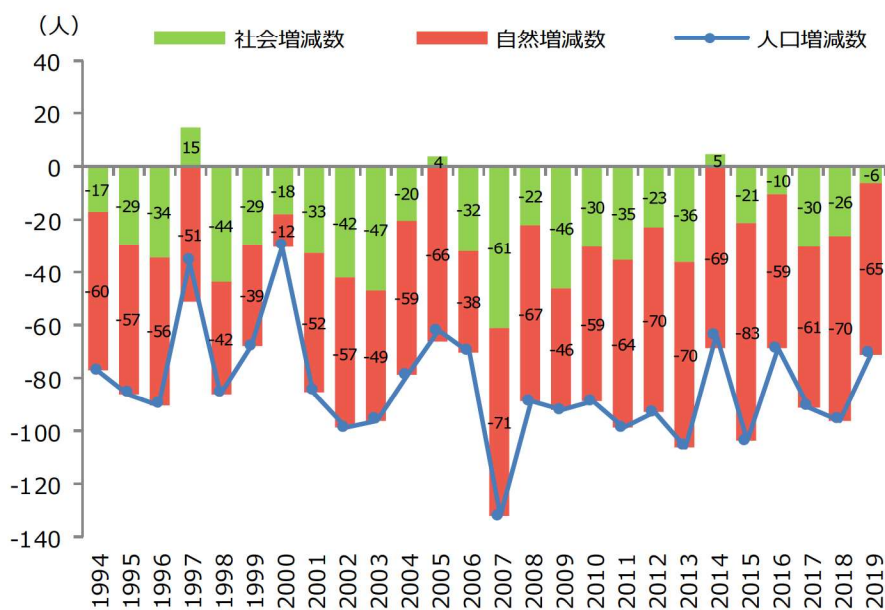
山添村の人口動態

山添村では、自然増減・社会増減とも概ね減少傾向にあります。

年齢階級別の純移動数(転入数－転出数)を時系列にみると、近年は就学・就職に伴う10代・20代のマイナス移動(転出過多)が減少している一方、60代・70代のマイナス移動が増加していることが特徴的です。

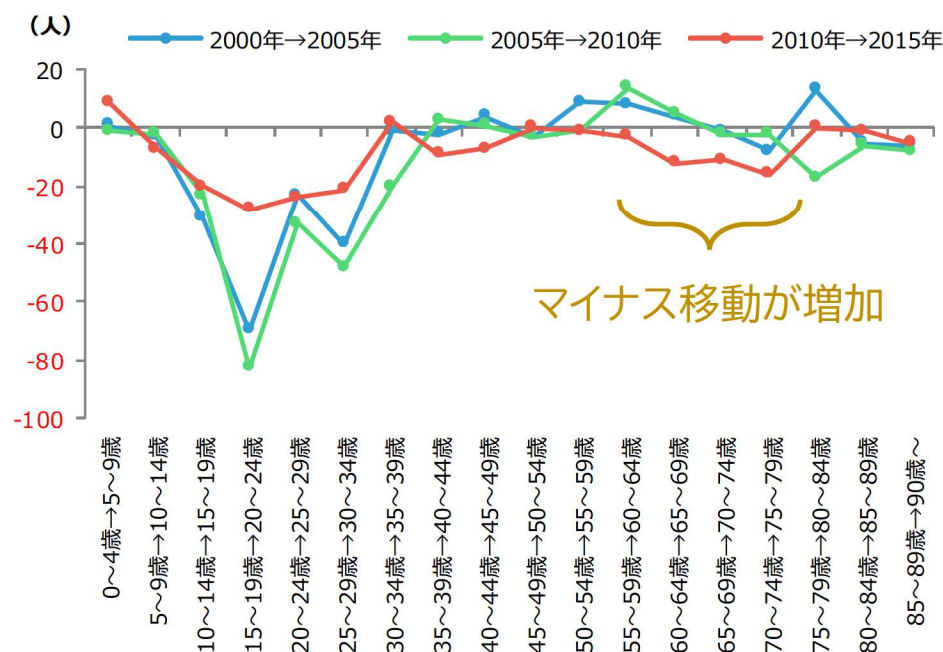
グラフ出典:RESAS

①自然増減・社会増減の推移



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
 【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

②年齢階級別純移動数の時系列推移



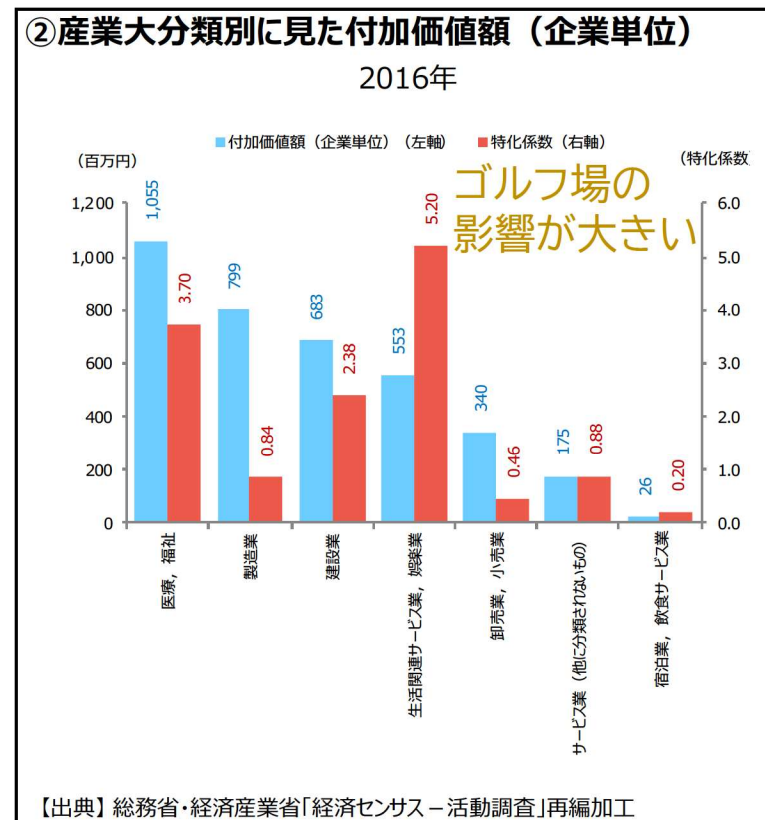
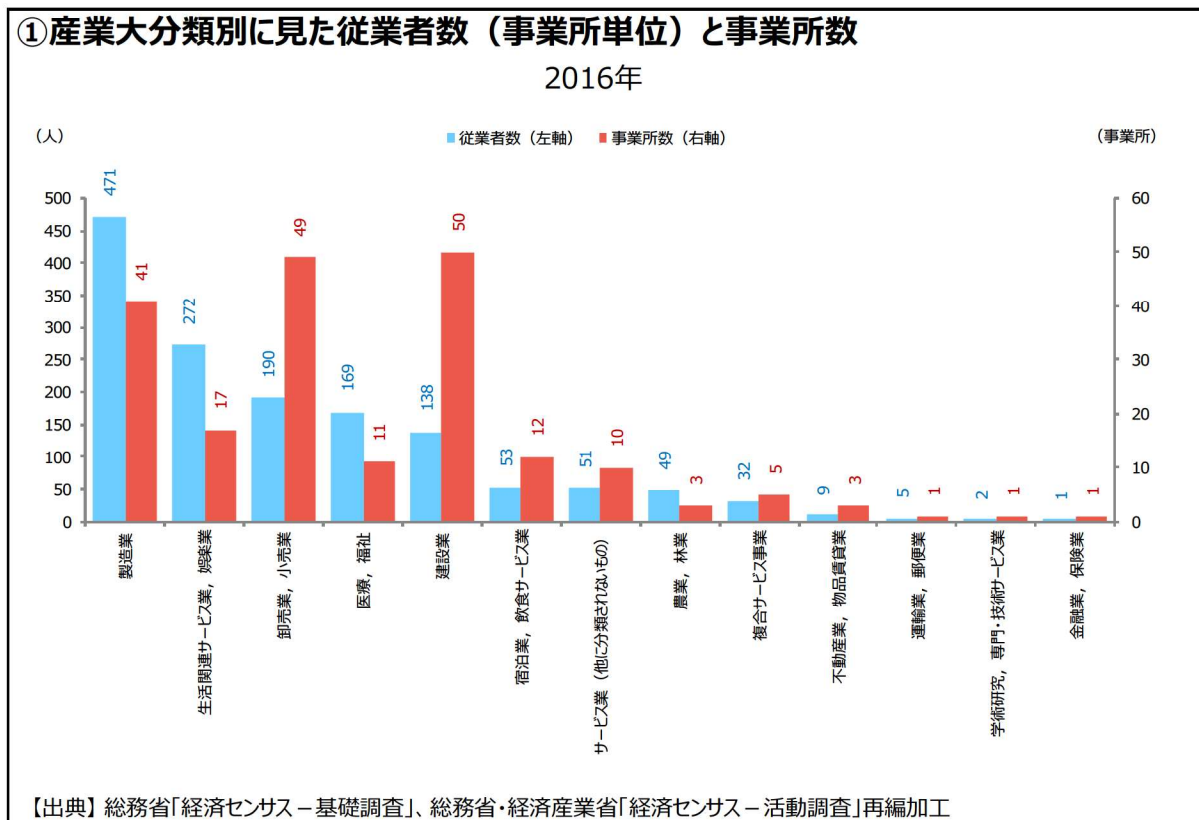
【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

山添村の産業

山添村の産業を産業大分類別にみると、従業者数(事業所単位)では「製造業」が、事業所数では「建設業」が最も多くなっています。

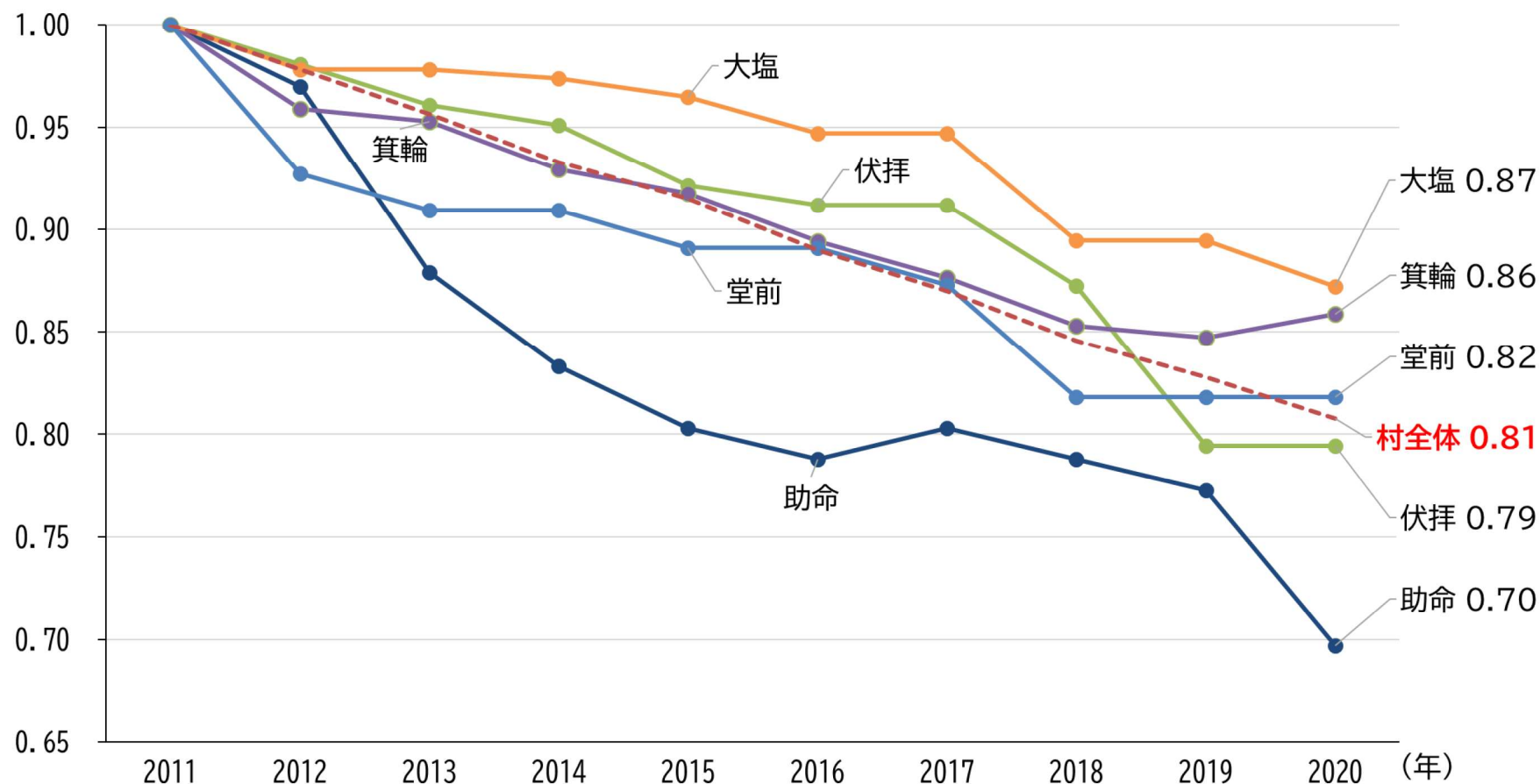
付加価値額でみると、付加価値額(企業単位)が最も高いのは「医療、福祉」で、次いで「製造業」「建設業」となっていますが、特化係数では「生活関連サービス業、娯楽業」が5.20と特に高くなっています。

グラフ出典:RESAS



西豊地区の人口推移

西豊地区の人口推移について、2011年(平成23年)の人口を基準(1.00)として大字ごとにみると、2020年には大塩区は0.87、箕輪区は0.86、堂前区は0.82で村全体の0.81よりも減少の割合が小さい一方、伏拝区は0.79、助命区は0.70で村全体よりも減少の幅が大きくなっています。(2020年11月末現在の5大字の住基人口は計511人)



西豊地区の観光入込客数の推移

西豊地区にある県立自然公園「フォレストパーク神野山」の観光入込客数の推移について、2015年(平成27年)の入込客数を基準(1.00)としてみると、2019年にはフォレストパーク神野山全体で0.88となっており、施設別では羊毛館が0.59で減少の幅が最も大きくなっています。

